

# ファサードを感じない建築

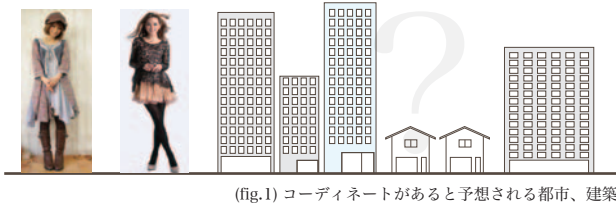
## 内外を感じる空間のコーディネーション

指導教員 吉松秀樹教授 印

9AEB2204 渡邊 健太

### 1.- コーディネート -

人が衣服を着ることにより、表現することができる「コーディネート」に魅力を感じ、都市、建築における「コーディネート」は何かと疑問に思った。(fig.1)



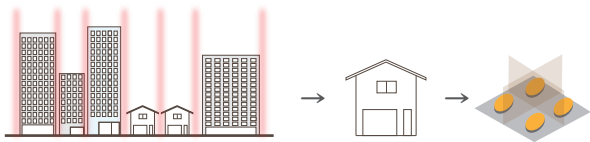
(fig.1) コーディネートがあると予想される都市、建築

### 2.- コーディネート＝内外の関係性 -

私達は衣服の着ることにより自分のスタイルを表現し相手に自分という人間を印象づけさせる。そのことからコーディネート＝内外の関係性と感じ、一つの意味合いだけではないものであることから多義的であると考えます。

### 3.- 都市における内部と外部 -

都市は外部から内部の行動が読めなくなっており関係性が希薄になっている。そのことから、うまくコーディネートができてないと感じれる。住宅においても四方の壁で覆われており空間が完結しており、内外の関係が取れていない。(fig.2)



(fig.2) 完結しており内外の関係が希薄になっている都市と住宅

### 4.- 多義的領域を持つ空間、建築 (fig.3.4.5)-

内外関係



手塚貴晴+手塚由比

内部多義的領域



宮品子

内部のような外部

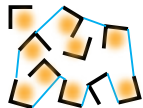


左右が商店になっており、道路が家の廊下のように感じ内部のような外部に感じる



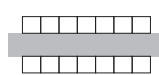
片側の壁面を中庭に向けて大きく開けており、内外の連続性を作っている

内部でもあり外部でもある半外部空間 (fig.3)



壁を四方で囲まず、ワンルームにしているが壁により領域は守られている

ワンルームでもあり一室でもある (fig.4)

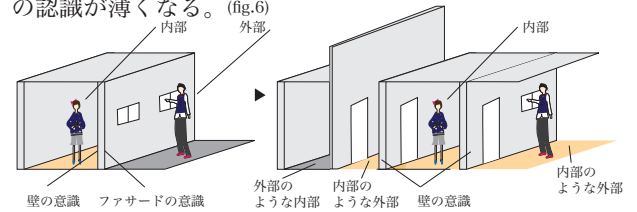


左右が商店になっており、道路が家の廊下のように感じ内部のような外部に感じる

内部でもあり外部でもある廊下のような空間 (fig.5)

### 5.- 内部と外部の認識を変える -

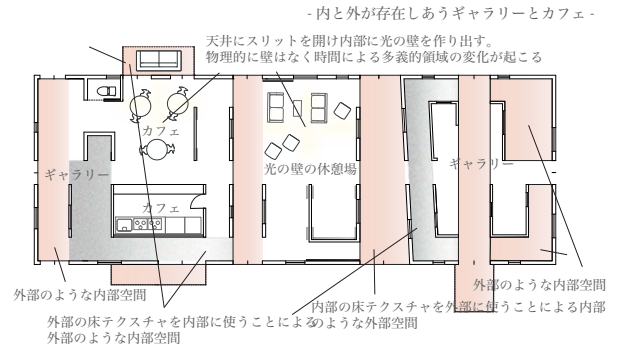
内部の壁面、天井、床面を外部に延長し、重層させ内部のボリューム、開口操作をすることにより、内部のような外部、外部のような内部をつくる。この曖昧な空間を造ることにより、外部と内部に多義的領域がつくられ、住宅からみると壁であるが、外部から見るとファサードの認識が薄くなる。(fig.6)



(fig.6) 内外の一体化による意識の変化

### 6.- 内と外が存在しあうギャラリーとカフェ -

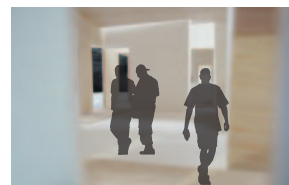
内部と外部が混ざりあうことで多義的領域を持ち、外部にリビング、廊下、内部に開放された庭のような空間ができる。そして、このギャラリーとカフェは都市に居場所をつくり、ファサードを感じず自然と溶け込む、建築になる。(fig.7.8.9)



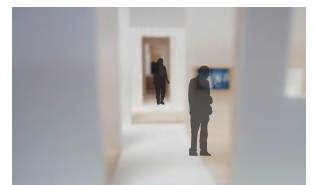
内と外が存在しあうギャラリーとカフェ



全体図 (fig.7)



内部空間 (fig.8)



内部空間 (fig.9)